

自動車総連

「ものづくり教室」を開催して

『第41回東京モーターショー2009』へ出展

自動車総連事務局次長(産業政策室長) 神戸 克之

1. 出展の経緯

長期にわたる国内市場の低迷は、これまで国内の事業基盤をもとに自動車産業が培ってきた低価格・高品質・先進技術などの競争力の源泉を

損ないかねず、ひいては私たちの働く場の安定にも著しい変化を伴うものとなりかねない。こうした視点に立って、自動車総連では国内市場の活性化に向け、労働組合の視点から取り組みを進めている。

具体的には、①「車に乗りやすい世の中をつくる」②「車の魅力を伝える」③「産業の魅力を高める」ことを3本の柱として、車を乗りやすい環境をつくるために、自動車関係諸税の軽減・簡素化や環境対応車買換え促進の創設・拡充など政府・関係省庁、地方行政に対して積極的な活動を展開してきている。

今回の「第41回東京モーターショー2009」への出展は、その柱の一つである「車の魅力を伝える」という取り組みの一環として、ものづく

くり(工作)を通じて親子のふれあいの場を提供すると同時に、とりわけ、多くの子供たちに車の魅力を感じていただく貴重なひとつの機会づくりをすることを目的としたものである。(ブース名「親子deものづくり」)

車の魅力を伝える手段として「ものづくり」を選んだ理由としては、言うまでもなく日本は「ものづくり」の国であり、その中核を担う自動車産業としても、国内産業の維持発展に向けては、ものづくりを担う人材育成が不可欠であり、次世代に対してものづくりの楽しさを伝えていくことが必要と考えてのことである。

また、今回の「親子deものづくり」は手作り型の形態とし、自動車総連加盟の12労連が協力のもと企画から

運営まで行ったことに特徴がある。

2. 出展概要

(1) 東京モーターショーの概要

開催期間 2009年10月23日(金)～11月4日(水)

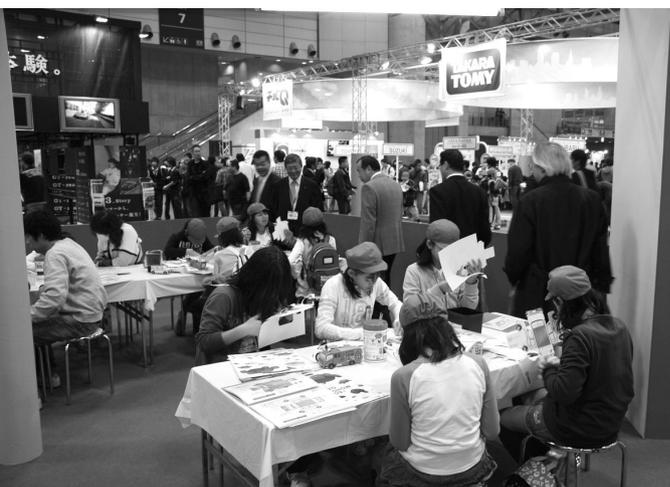
開催場所 千葉県千葉市幕張メッセ
出展者 10カ国・1地域から2政府・2団体・108社が参加

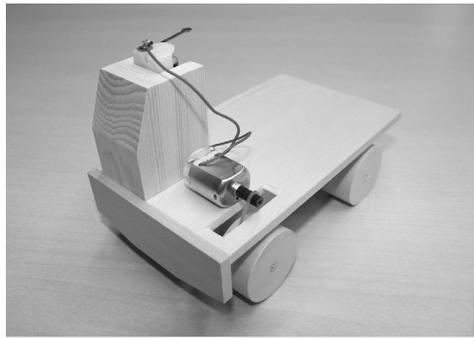
(2) 自動車総連ブースの概要

ブース名称 自動車総連「親子deものづくり」
コンセプト 子供たちに「ものづくり」を通じて「車の魅力」を伝えていく
対象 小学生以下の子供

出展概要

①「未来のくるま」の絵を掲示
小学生以下を対象に「未来のくるま





②モーター工作



③ペーパークラフト

⑤実車ペイント
工作教室への参加の記念とし、ラッピングを施した本物の車にカラフルな花の模様を書き込んでいただくイベントも実施した。車へはあらかじめ花の形をした下絵が印刷されており、そこへ色をつけてもらう方法を取った。出来上がった車の完成度は高く、色鮮やかな花柄模様の車が

近くの幼稚園から見学に来た園児たち



ま』をテーマにした絵を各労連に事前に募集し、総計で325枚の絵を総連ブースにて掲示を行った。開催期間中に、実際に絵を描いたお子さんがご家族で来場され、記念写真を撮っていかれる姿も多く見られた。

②モーター工作
車の魅力はやはり走ることであり、いろいろと検討の結果、モーターを動力とする木製の工作を実施。モーターについては、自動車総連の



①子供たちが描いた「未来の車」の絵

取り組みに対し、ご理解とご賛同をいただいたマブチモーターさんから無償で提供していただいた。工作を限られた時間の中で楽しんでいただくために、事前に加工した木製部品を準備し、ボンドで接着をするものとした。また、ブース内には走行コースを準備し、完成した車を実際に走らせていただいた。自分で作った車が走り出した瞬間の、大喜びをする子供たちの姿は今でも忘れられない。

③ペーパークラフト
乗用車、大型車(消防車)、二輪車(バイク)の三種類を準備し、会場内では1種類のみを作っていたが残りには持ち帰っていただいた。とりわけ消防車の人気が高かった。

当初は小さなお子さん向けとして用意したものであったが、実際にはハサミをつかって切り取るというの小さなお子さんには難しかったようであった。

④記念写真
親子で工作を行っている様子を撮影し、1枚は会場内のパネルへ貼り付けていただき、もう1枚は記念に持ち帰っていただいた。

当初の想定を超える来場者があり、事前には張り切れず、ブースのいたるところの壁が来場者の写真でいっぱいとなった。



④記念写真
来場者の写真で一杯のパネル

⑤実車ペイント — 本物の車に花模様を描き込む子供たち





引率の先生の説明を聴く園児の皆さん



「ものづくり教室」で子供たちの質問に答える西原自動車総連会長

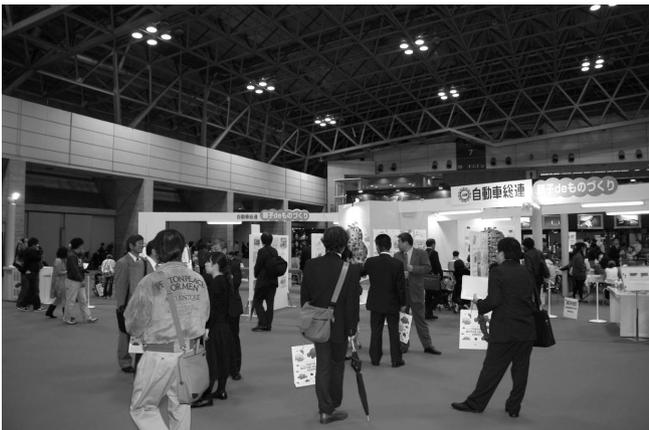
親子 de ものづくり



ペーパークラフトづくり



親子で一緒に共同作業



自動車総連「ものづくり教室」ブースの周辺



お父さんにハサミ切りを手伝ってもらおう子供たち

完成した。このイベントはかなりの人気を呼び、女性の大人の方からも「車のお絵かきだけやらせて欲しい」という声が多く、お断りするのが大変であった。

また、ペイントされた実車は1月14日に行われた自動車総連中央委員会の会場で、親子で撮影した記念写真を貼り付けたパネルとともに展示を行った。中央委員会へ参加していただいた多くの組合役員の方々へもモーターショーでの自動車総連の取り組みの様子を伝えることができた。

3. ブースの運営状況と来場者、スタッフからの評価

(1) ブース運営の状況

平日、土日ともに多くの来場者の方々にお越しいただき、結果として整理券配布による予約制でブース運営を行うこととし、入場を制限せざるを得ないほど盛況であった。

また、平日には社会科見学による小中学生の多数の来場もあり、「親子deものづくり」ブースへもご参加いただいた。

(2) 参加者からの評価

自動車総連のブースへ来場された



親子で参加 — 「ハイ、チーズ！」

きつかけに対する回答では75%の方が、「会場の入り口で知った」や「通りがかって知った」と答えており、多くの方が東京モーターショーの会場に来てから「親子deものづくり」への参加することを決めた形となった。一方で「インターネットで知った」と答えた方が14・2%に達した。平日の来場者の中には、開場と同時に他のブースへは目もくれず、自動車総連のブースへ走ってこられる家族の方が何組かお見えになったが、インターネットでの紹介がブースのPRに少なからず役立ったと思われる。

工作やブース運営に関する意見では、91・1%の方が「工作は楽しかった」と答えており、自由記載欄へも「ありがとう」「子供にとって良い経験だった」「親子で楽しめた」等、好意的なコメントが多かった。細かくみれば、各イベントに関しての事前準備の不足や運営のまずさから、来場者にご迷惑をかけた点はあったにせよ、全体的としては大成功したイベントであった。

また、このような「ものづくり行事にまた参加したいか」という設問に対し、「積極的に参加したい」82・0%「内容によっては参加したい」17・9%という結果となり、ものづくり教室への潜在的ニーズは高いという結果となった。今後、様々な形での「ものづくり教室」を開催していくことは有効であると考えられる。

(3) スタッフからの評価

スタッフのアンケートに書かれた意見で多かったものは「普段はできない良い経験ができた」「参加した親子が笑顔だったのでやりがいがあった」の2点であり、参加されたスタッフからも高い評価をいただいた。

また、労働組合がモーターショーへ出展することは初めての取り組み

であり、労使会議等の様々な労使の話し合いの場において、経営側にアピールすることが必要であるというご意見もいただいた。

4. まとめ

出展の目的である「ものづくり」を通じて子供たちに「車の魅力」を伝える事については、非常に多くの子供たちに工作を体験していただくことができ、来場者アンケートにおいても「楽しかった」という感想が92%を占めたことなどから、当初の目的を果たすことができたと言える。

今回の出展にあたっては、12労働が一体となった取り組みとして推進することができ、様々なメディアでも取り上げられ、組織内外に対して国内市場活性化に取り組み自動車総連の活動を広く伝えることができた。

「ものづくり」を通じて「車の魅力」を広く社会に伝えて行く活動は大変重要であり、今後の取り組みについて検討を行なっていく。